

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第20号

平成19年5月1日発行

●
発行

愛知県がんセンター
Tel 052・762・6111(代)

総長就任あいさつ



新総長の最も大切な仕事は、この4月1日付で施行されました「がん対策基本法」に則って、当がんセンターが「都道府県がん診療連携拠点病院」として県内の「地域がん拠点病院」との連携を密にして、全国どこでも高度ながん医療の提供ができる体制作りをすることだと思っています。また当センターでは研究所も活発に活動しており、臨床と研究の懸け橋となるトランスレーショナルリサーチを行うのに最適な環境が保たれており、当センター発の新しい治療法の開発や臨床研究の推進も重要な責務であると認識しています。

一方、臨床の現場では、ますます厳しくなる医療情勢の中にあっても、病める患者さんのためにより良いがん医療をより安全に、より迅速に提供する努力が求められています。病院事業庁の指導により、より効率的な病院経営を行うための思い切った計画が立案され、それらが着々と実行されてきました。これからは従来の改善計画を更に推進する一方で、医療従事者の職場環境の改善に努め、彼等の勤労意欲を維持向上する方法を模索し、それを実現できるように努力したいと思います。

愛知県がんセンター 総長 二村 雄次

「リンパ浮腫外来」を開設しました。

がんの治療成績を上げようと努力すると共にがん患者さんの生活の質(QOL)を高める医療・看護にも積極的に力を注いでいます。この4月から乳がん、泌尿器のがん、直腸がんなどの術後、あるいは放射線治療後に発生する腕や下肢のむくみ(リンパ浮腫)による症状を和らげるために、この分野では日本の代表的な外科医である愛知県立看護大学外科教授の平井正文先生を嘱託医としてお招きして、2名のリンパ浮腫ケアチームの看護師と共にリンパ浮腫外来を開設しました。外来は金曜日の午後で、当面は当院の入院および外来通院中の患者さんを対象としますが、近いうちに県下のリンパ浮腫に悩む患者さんのどなたにも受診して頂けるよう努力します。

胃がんの予防と分子標的治療の確立をめざして

研究所からの報告

私たちは世界に先駆けてピロリ菌感染スナネズミ胃癌モデルを開発しました。このモデルによりピロリ菌は直接ではないが強力な胃癌発生促進作用がある事が分かってきました。除菌による胃癌の予防効果や高濃度食塩食がピロリ菌の胃癌促進をより強力にする事も実証してきました。また植物に含まれるリグナン類のNDGAにピロリ菌の運動抑制作用があり、ピロリ菌による胃癌促進作用を抑制する事も明らかにしました。

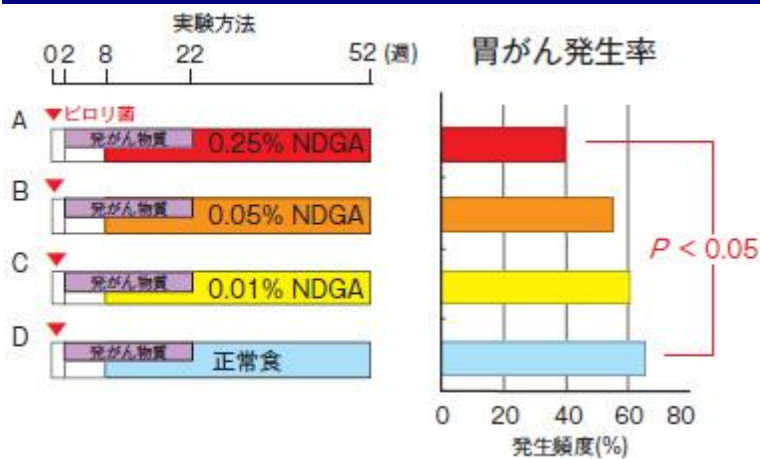


研究所
腫瘍病理病理学部

部長・立松正衛

胃がんの転移再発は予後不良の最大の要因です。再発の芽となる腹腔内の微小転移を高感度に早期に検出できる遺伝子診断法(高度先進医療として認可)を病院消化器外科と共同で開発しました。また胃癌の肝転移巣ではHER2が高発現している場合が多い事を見出し、同部から樹立したHER2高発現胃癌細胞株を用いて、分子標的治療薬ゲフィチニブ(イレッサ)やトラスツマブ(ハーセプチン)が増殖や腹膜転移の抑制に有効である事を動物実験で初めて明らかにしました。

植物性リグナンのNDGAのピロリ菌の胃癌発生促進に対する抑制効果



腹膜転移モデルにおけるイレッサならびにハーセプチンによるHER2高発現胃癌細胞の腹膜転移抑制



NST (Nutrition Suport Team : 栄養サポートチーム) 本格稼働！！

栄養管理はすべての治療に共通する医療行為の基本ですが、本邦ではとすれば軽視されてきました。NSTは70年代の米国で医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師らが協力して院内での栄養管理を実施する集団として誕生しました。

当院でも平成19年度の本格稼働をめざして、昨年より準備をすすめてきました。NST活動が軌道にのれば、褥瘡や感染症などの減少による医療の質の向上のみならず、医療費の削減などにも寄与できると考えています。



中央病院からの報告

外来化学療法で用いる抗がん剤の調製



中央病院
薬剤師

部長 三浦友一

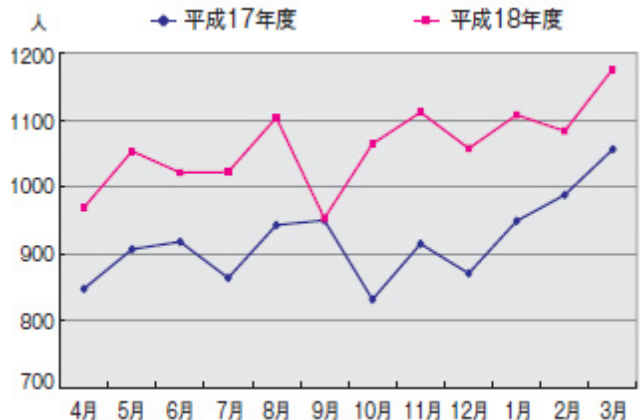
外来化学療法を受ける患者さまの増加に対応するため、当院では、平成17年12月に処置ベッドを増床して(20床→29床)、外来化学療法センターをオープンしました。最近では、外来で化学療法を受けられる患者さまが毎月1,000人を超えるようになっています。

薬剤部では、外来化学療法で用いられる抗がん剤の調製を行っていますが、患者さまごとに、用いられる薬剤の種類も量もさまざまですから、調製には細心の注意が必要となります。このため、薬剤が患者さまのもとに届けられるまでに何人もの薬剤師や看護師がチェックを行っています。また、午前中の外来患者さまが集中する時間帯では、調製する薬剤の数も多くなり、患者さまを長い間お待たせすることもあります。常に「正確に、速く」を心掛けて調製を行っています。今後も、より良質で安全な医療の提供ができるよう薬剤部としても努力していきたいと思っています。



抗がん剤の調整を行っているところ。

外来化学療法患者数(月別)



診察医の紹介 今回は、頭頸部外科部です。

頭頸部外科部は4人のスタッフメンバーに、全国各地からの4人のレジデントの8人で編成されています。われわれが目指すべき頭頸部癌治療は手術、抗癌剤、放射線という3つの治療手段を、個々の病気に合わせて、最高の技術で適切に提供することです。このために、われわれは日々努力致しております。



部長 長谷川泰久



医長 寺田聡広



医長 小川徹也



医長 兵藤伊久夫



主な診療案内

平成19年5月1日現在の中央病院外来診療担当一覧です。

受付時間: 午前8時30分から午前11時30分まで

(自動再来受付機)午前8時から午前11時30分まで

診療科	月	火	水	木	金
総合初診	波多野	樋田	山雄	森島	中村(常)
消化器内科	山雄(初診)・田近 河合・伯耆	山雄(初診)・河合 水野(伸)・澤木	山雄(初診) 石川・厚木 伯耆	澤木(初診) 中村(常)・石川	中村(常)(初診) 田近・水野(伸) 高木
呼吸器内科	吉田(初診) 堀尾(再診)	樋田(初診) 吉田(再診) 朴(再診)	清水(淳)(初診) 樋田(再診) 朴(再診)	堀尾(初診) 清水(淳)(再診)	(初診交代制) 樋田・吉田 堀尾・清水(淳)
循環器	波多野			波多野	
血液・細胞療法	山本(初診) 鏡味・田地	森島・山本 大木	鏡味(初診) 田地	森島(初診) 山本・加藤(春)	田地(初診) 鏡味(再診)
薬物療法	室	宇良	室	宇良	室
頭頸部外科	長谷川・小川		長谷川・兵藤	(予約のみ) 寺田(第1・3) 小川(第2・4) (第5交代制)長谷川 寺田・小川・兵藤	寺田 兵藤(第2・4予約のみ)
胸部外科	(予約のみ)	福井	(予約のみ)	光富・波戸岡	光富・篠田 波戸岡・森
乳腺科	藤田(初診)・角田 林(裕)	林(裕)(初診) 岩田・角田	角田(初診) 岩田・山下	山下(初診)・岩田 藤田・林(裕)	岩田(初診)・角田 山下・藤田(午前のみ)
消化器外科	山村(第2・4) 伊藤(誠)(第1・3・5) 小森(康)	金光・望月	加藤(知)・山村 清水(泰)	佐野・平井 伊藤(誠)	(予約のみ)
整形外科	杉浦・山田	杉浦	山田		杉浦(第1・3・5) 山田(第2・4)
泌尿器科	林(宣)・小倉		脇田・小倉		林(宣)・脇田
婦人科	丹羽(初診) 水野(美)(初診)	伊藤(則)(初診) 中西・丹羽 水野(美)	丹羽(初診・第2・4) 水野(美)(初診・第1・3・5) 伊藤(則)	中西(初診) 丹羽・水野(美)	中西(初診)
放射線診断部	稲葉(初診)・佐藤		稲葉(初診)・山浦		稲葉・名嶋
放射線治療部	不破・古平・中村(達)	古平・立花	不破・立花・中村(達)	不破・立花	不破・古平・中村(達)
専門外来				禁煙外来 平木(午後)	リンパ浮腫外来 平井(午後)

※医師名の後の数字は、月の週を表します。 ※変更(休診)等がございますので、お電話でご確認ください。
 ※再診予約制: 診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。1052-764-2911(直通) 午前9時~午後5時(土・日・祝・年末年始除く)

交通のご案内

地下鉄利用:「自由ヶ丘」②番出口から徒歩7分

- ◎名古屋・栄から 所要時間:名古屋から約30分
東山線「藤ヶ丘」行き乗車、「本山」乗り換え
名城線「左回り」乗車、「自由ヶ丘」下車。
- ◎金山・栄・大曾根から 所要時間:金山から約35分
名城線乗車、「自由ヶ丘」下車。

市バス利用:「千種台中学校」下車徒歩4分

- ◎名古屋駅から 所要時間:名古屋駅から約40分
基幹2系統「光ヶ丘」または「猪高車庫」行き乗車
「千種台中学校」下車。
- ◎星ヶ丘から 所要時間:星ヶ丘から約20分
星ヶ丘11系統「地下鉄自由ヶ丘」行き乗車、
「千種台中学校」下車。

愛知県がんセンター中央病院 Tel.052-762-6111 Fax.052-764-2963

〒464-8681 名古屋千種区鹿子殿1-1 ホームページ:<http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>